

金閣寺

マルコス浄瑠璃『金閣寺』床本集

義太夫詞章／マリア・アルナル歌詞対訳

スペイン語／カタルーニャ語詞：ロベルト・ファティーニ

義太夫詞章：鶴澤慎治

第一幕

【マリア・アルナル】

Que tot s'ensorri excepte tu
Que tot s'ensorri
Que tot s'ensorri excepte tu
Que tot s'ensorri
Es impossible tocar l'eternitat
amb els dits d'una ma
i la vida amb els dits de l'altra
en nom del dia perdut
en nom de la llum extingida
en nom de tots els morts

Que tot s'ensorri excepte tu
Que tot s'ensorri
Que tot s'ensorri excepte tu
Que tot s'ensorri
Es impossible tocar l'eternitat
amb els dits d'una ma
i la vida amb els dits de l'altra
en nom del dia perdut
en nom de la llum extingida
en nom de tots els morts
en nom de l'esperança prohibida

すべて崩れ落ちよ ただあなたを除いて
すべて崩れ落ちよ
すべて崩れ落ちよ ただあなたを除いて
すべて崩れ落ちよ
片方の手の指で永遠に触れ、
もう片方の手の指で生に触れることなどできはしない
失われた日の名のもとに
消え去った光の名のもとに
すべての死者の名のもとに
あなた以外、すべて崩れ落ちればいい

すべて崩れ落ちよ ただあなたを除いて
すべて崩れ落ちよ
すべて崩れ落ちよ ただあなたを除いて
すべて崩れ落ちよ
片方の手の指で永遠に触れ、
もう片方の手の指で生に触れることなどできはしない
失われた日の名のもとに
消え去った光の名のもとに
すべての死者の名のもとに
あなた以外、すべて崩れ落ちればいい
禁じられた希望の名において

【義太夫】

月は映らぬ灰の面
覆水盆に返らずとは かの唐土の太公望
夫の出世の前と後 千木にかけたる妻への戒め
この金閣の戒めは「現状ヲ変更セザルコト」と記せし制札文言を 見つめる男が胸の内
計り知れぬはあくなき憧れ 御し難きは人間の巡る因果の糸車 紡ぐは親子の切れぬ縁
我が苦しみの源を 「焼かねばならぬ」と灯を尋ね歩くぞ是非なけれ

【マリア・アルナル】

Como el canto endeble de un mudo
Me desoye tu belleza,
Tu silencio, tu sordera de oro,
No me oye susurrar.
Grita al cielo y no responde nunca,
Llama, canta y nunca escucha el mundo.
Lejanía, el resto es baluceo,
Guerra, agonía, ruido de tierra.
Tartamudo mundo que muere,
Porque nunca estuvo vivo.
Solo puede y puede solo odiarte
Quien te ama y no tiene palabras,

口のきけない者の弱々しい歌のように
あなたの美しさは私に耳を貸さない
あなたの沈黙、あなたの黄金の聲、
それは私のささやきを聞かない
空に向かって叫んでも、決して答えない
呼び、歌っても、世界は決して耳を傾けない
遥かなるもの、あとはすべて ただのどもり、
戦争、苦悶、大地の騒音
どもりながら死んでゆく世界
なぜなら、一度として生きてはいなかったから
あなたを憎むことができるのは、
そして憎むことしかできないのは、
あなたを愛しながら 言葉を持たない者だけ

【義太夫】

亡者はびこるこの地には 声なき声の響きあり 醜き我を打ち捨てて
その響きこそ我が憧れ その響きこそ我が憎しみ かく煩惱に迷うぞや
その響きこそ その響きこそ 我が憧れ 我が憎しみ 煩惱に迷うぞや

実に美しきはありてなき 幻の如く見ゆれども
またある時はこの手に触るる 実体とぞ覚ゆるなり
「金閣ほど美しいものは此世にない」
「金閣ほど美しいものは此世にない」
「地上でもっとも美しいものは金閣だと、お父さんが言われたのは本当です」

【義太夫】

面前に立つ者これ何人ぞと 問われて答えも老いの身の
「我元はこの山の住職なり
『悟り得し者還って因果に落つるやまた無しや』と問われ
『不落因果』と答うれば たちまち野狐の身となり五百生
今請う和尚一転語をと 言うに百丈答えて曰く
「不昧因果」

(無門関第二則「百丈野狐」より)

【マリア・アルナル】

Te quemaré por no quemar el mundo.
Las llamas restallando como un látigo.
Enderezándose como si danzaran.
Te quemaré porque no hay fuego que arda.
En mi alma apagada al nacer.
Te quemaré por no saber arder, llorar ni amar.

世界を焼かないために、あなたを焼く
鞭のように音を立てる炎
踊っているかのように立ち上がる炎
あなたを焼く 燃える火などないから
生まれたときから火を失った 私の魂には
燃えることも、泣くことも、愛することも知らないから
あなたを焼く

Jo estava que m'abrasava per l'amor d'un
joenet
quant més bevia més set
l'aigua no em saciava
quant més bevia més set
l'aigua no em saciava

私は身を焦がしていた ひとりの
若者への恋に
飲めば飲むほど 渴きは増し
水では満たされなかった
飲めば飲むほど 渴きは増し
水では満たされなかった

【義太夫】

香に迷う 梅が軒端に匂い鳥
思い出すは去年の秋 月の光に照る金閣の 内に満つるは真の闇
その頂に上らんと 鍵取り出し差し込めば
たちまち吹き来る劫風の 我が肌へをなめゆきて
五体を貫く官能は 我が身ばかりか金閣も 打ち壊さんずその勢い
強く、はやく、力強く！
菩提夜菩提夜
菩駄夜菩駄夜
彌帝唎夜
那囉謹墀
地利瑟尼那
波夜摩那 娑婆訶
暮る想いは深草の 百夜も通う恋の闇

【マリア・アルナル】

Las llamas dicen

lo que él calla.

El fuego es su deseo.

Cuanto más brilla el templo,
más oscura se vuelve su alma.

herido por la belleza.

Ama el oro que lo desprecia.

mírame como te miro,

con un amor parecido a la muerte.

El fuego es su deseo.

Las llamas dicen lo que él calla.

私の醜さは、世界の醜さの一部であり、
世界の美しさへの抗議だった(日本語歌唱)

炎は語る

彼が口にしないことを

火は彼の欲望。

寺が輝けば輝くほど、

彼の魂は暗くなる

美に傷つけられて

彼を蔑む黄金を愛する

私があなたを見るように 私を見て、

死にも似た愛で

火は彼の欲望

炎は 彼が口にしないことを語る

【義太夫】

透脱を 得るも得ざるもひたすらに 尽きぬ光を尋ねらん

透脱を 得るも得ざるもひたすらに 尽きぬ光を尋ねらん

第二幕

【マリア・アルナル】

Xiqueta meua
Que del carrer eres l'ama
Xiqueta meua
Tinc el cor encès en flama
No te separe
Del caliu del meu voler
Ai angelet
Del meu coret
No te separe
Del caliu del meu voler
Ai angelet
Del meu coret

僕の娘よ
この通りの主である君よ
僕の娘よ
僕の心は炎のように燃えている
離れないで
僕の想いのぬくもりから
ああ、小さな天使よ
僕の小さな心の人よ
離れないで
僕の想いのぬくもりから
ああ、小さな天使よ
僕の小さな心の人よ

【義太夫】

主人公 主人公
惺惺著
喝
喏喏
莫妄想 莫妄想
喏喏
他時異日
人の瞞を受くこと莫かれ
喏喏

【マリア・アルナル】

Tota de cendra
em vestiré
Tota de cendra
Em vestiré
I et cremaré perquè no hi ha flama
a la meva ànima extinguida al nàixer
Tota de cendra
em vestiré
i et cremaré

全身に灰を
まとう
全身に灰を
まとう
そしてあなたを焼く 炎がないから
生まれたときから火を失った 私の魂には
全身に灰を
まとう
そしてあなたを焼く

美しいものは、いつも遠くにあった
近づけば近づくほど、
それは遠ざかっていった(日本語歌唱)

【マリア・アルナル】

Apoyá en el quicio de la mansebía,
miraba encenderse la noche de mayo
pasaban los hombres y yo sonreía,
hasta que en mi puerta paraste el caballo.
¡Serrana! ¿me das candela?
y yo te dije: Gaché
ven y tómalala en mis labios
y yo fuego te daré
Dejaste el caballo y lumbre te di
y fueron dos verdes luceros de mayo
tus ojos pa mí.

Ojos verdes,
Verdes como l'arbahaca,
verdes como er trigo verde,
y el verde, verde limón.
Ojos verde, verdes
con brillo de facas
que s'han clavaíto en mi corazón
Pa mi ya no hay soles, luseros ni luna,
no hay más que unos ojos que mi vía son.
Ojos verdes,
verdes como l'arbahaca,
verdes como er trigo verde,
y el verde, verde limón.

スペイン歌謡（コブラ）
《Ojos verdes（緑の瞳）》より（1937年）
作詞：Rafael de León、Salvador Valverde
作曲：Manuel López-Quiroga

戸口にもたれて 娼家の前で、
五月の夜が灯るのを見ていた
男たちが通り過ぎ 私は微笑んでいた、
あなたが私の戸口で馬を止めるまでは
「娘よ、火をくれないか？」
私は言った、「ねえ、あなた
ここへ来て 私の唇から取って
私があるに火をあげる」
あなたは馬を降り 私は火を灯した
そして五月の二つの緑の星になった
私にとっての あなたの瞳は

緑の瞳、
バジルのように緑、
青い麦のように緑、
そして緑、緑のレモン
緑の瞳、緑の瞳
短剣のようなきらめきで
私の心に突き刺さった
私にはもう太陽も、星も、月もない、
あるのはただ 私の命そのものとなった二つの瞳
緑の瞳、
バジルのように緑、
青い麦のように緑、
そして緑、緑のレモン

【義太夫】

「金閣は無力じゃない。決して無力じゃない。しかし凡ての無力の根源なんだ」
慣れし故郷が荒海の 波間の灰色深淵は
くらまさざる我が心の闇
“大衆言い得ば即ち救わん 言い得ずばすなわち斬却せん”
波に向かい風に向かい 歩めば閃く一転語
「金閣を焼かなければならぬ」

【マリア・アルナル】

D'una fusta
embriagada de vent i de foc
a vestir de cançons
la fumera
d'aquest silenci
tanta llum
travessà la nit
I una alba
inminent sense tu

風と火に酔った
一本の木から
歌をまとわせる
煙
この沈黙の
あれほどの光が
夜を貫いた
そして夜明けが
あなたのいないまま 迫っている

La luz negra de la luna
La luz negra de la luna
serena su belleza
serena
Sobre la faz de la tierra
Sobre la faz de la tierra
lo bello es estéril
lo bello es estéril

月の黒い光
月の黒い光
その美は静か
静か
この大地の上では
この大地の上では
美しいものは実を結ばない
美しいものは実を結ばない

Todo lo bello está
Todo lo bello está
prometido a la muerte
prometido a la muerte

すべて美しいものは
すべて美しいものは
死を約束されている
死を約束されている

【義太夫】

無心に誘う戯れの 無心に誘う戯れの
色は匂へど散りぬるを 我が世誰ぞ常ならむ 我が世誰ぞ常ならむ
常ならぬ世に湛然と 響き渡るは音なき音
汝聞かずや音なき音を

【マリア・アルナル】

Por tus penas, por tus
Caballos corren por tus venas
Te llevan donde no hay dolor
Ahí donde tu cuerpo ya no siente
Tampoco sentirás mi amor
Te lleva donde no hay dolor
Te lleva donde no hay dolor
Tampoco sentirás mi amor
Y aunque a mí sí que me duela
Ver cómo se apaga tu interior
Desapareciendo lentamente
Aunque no lo sientas, te llega igual mi amor
Para no sentir dolor te fuiste
Para no sentirlo, para no sentirlo te fuiste
Y ese fue, y ese fue mi dolor
Mi dolor

あなたの苦しみのために、あなたの
馬たちが あなたの血管を駆け抜ける
痛みのない場所へ あなたを連れてゆく
そこでは あなたの身体はもう何も感じない
私の愛も 感じることはない
痛みのない場所へ あなたを連れてゆく
痛みのない場所へ あなたを連れてゆく
私の愛も 感じることはない
たとえ私には こんなにも痛くても
あなたの内側の光が消えてゆくのを見ることが
ゆっくりと 消えてゆくのを見ることが
あなたに感じられなくても 私の愛はそれでも
あなたに届く
痛みを感じないために あなたは去った
感じないために、感じないために あなたは去った
そしてそれが、それこそが 私の痛みだった
私の痛み

【義太夫】

闇満々たる海原へ こぎ出す船の輝きは 天にありまた我が内にあり
我はこの身をそのままに 浅き夢見じ酔ひもせず
これはそもそも金閣の
焼け残りたる残骸に
生を見出す物語

底瑟姤底瑟姤 瑟致哩瑟致哩 娑發吒娑發吒 扇底迦 室哩曳 娑嚩訶

定めなき世を煌々と
照らす光ぞ有り難き

【マリア・アルナル】

Ay, ay
una joya brilla en mi
te llevo en la sangre
火よ 天から降れ(日本語歌唱)
que caiga el fuego
que nos guía
火よ 天から降れ(日本語歌唱)

山火事が 私の中で
消そうとするほど 燃え上がる(日本語歌唱)

I et cremaré i et cremaré

ああ、ああ
ひとつの宝石が 私の中で輝く
あなたは 私の血の中にいる
火よ 天から降れ
火よ 降れ
私たちを導く
火よ 天から降れ

山火事が 私の中で
消そうとするほど 燃え上がる

そしてあなたを焼く あなたを焼く

【義太夫】

怛儼也他
壹底蜜底
底里蜜底
底里弭里蜜底
底黎比
弭里
弭里底弭
底里弭里

以後、「孔雀明王経」陀羅尼が続く

三島由紀夫「豊饒の海」第二巻「暁の寺」より